

第5学年 国語科 学習指導案

日 時 平成16年10月15日(金) 5校時

児 童 男9名 女12名 計21名

指導者 柴田 正徳

1 単元名 二 地球環境について考えよう

教材名 「一秒が一年をこわす」 「ホタルのすむ水辺」 「子ども環境会議を開こう」

2 単元について

(1) 教材について

本教材は、5年生になって2番目に学習する説明文教材である。はじめに学習した「海にねむる未来」では、具体的な事例や資料を示すことにより論に説得力を持たせるという説明文の特徴や、大切な言葉を探しながら要旨をとらえる学習をした。

本単元は、「一秒が一年をこわす」と「ホタルのすむ水辺」の2つの説明文教材と、総合的な活動の「子ども環境会議を開こう」からなる3教材で構成されている。

「1秒が1年をこわす」は、題名が意味することを深く読み進め要旨をとらえながら、環境問題について考える教材である。「ホタルのすむ水辺」では、具体的な事例や事実にもとづく筋道だった論の進め方を学びながら、身近な環境問題への関心を高めていく。そして最後は、環境問題について自分の課題を持ち、情報収集や調査活動を行い資料にまとめ、それをもとに「子ども環境会議」を開くという学習に発展する。会議では、自分達のできることを話し合い、考えを深め、自分達の生活でこれから実践していくことを確認する。

以上の3つの教材を通して、地球環境を身近なものとしてとらえながら、確かに読み取り、豊かに伝え合う力を養う単元であると考えられる。

(2) 児童について

6月に学習した説明文単元「海にねむる未来」の中で、子ども達は要旨の意味やとらえ方を知り、自分なりに要旨をまとめることができるようになってきた。しかし、筆者が考えを述べている文と複数の大切な言葉を組み合わせる要旨を作るという方法だったために、筋道の通らない文章になってしまう子もいた。

授業中での自分の考えを交流する場面では、答えが短くはっきりとしているものにはたくさんの子が答えることができるが、自分の考えを説明しなければならないようなときには、積極的に発言できなくなってしまう子が多くなる傾向にある。

(3) 指導について

2つの説明文教材は、要旨をとらえる学習の積み上げと、説明文ごとに文章の構成や論の進め方に読み手を意識した工夫があるということに気づかせることが大きな目標となる。

確かに読み取り、要旨を実感を持ってまとめられるようにするために、言葉、語句、文の示す意味内容を特に大切に扱い、児童ひとりひとりがイメージを持てるようにしていきたい。また、既習の「海にねむる未来」の叙述とも比べながら、説明文の特徴についてとらえさせていきたい。

これらの学習の成果が、自分の調べたことや考えたことを伝える方法として、最終的に「子ども環境会議」に生かされるように指導を進めていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 目標

地球環境について考えながら文章を読み、要旨をとらえ、自分の課題をもつことができる。

(2) 評価規準

- ・ 地球環境について関心を持ち、自分なりに考えながらを読んでいる。 (関)
- ・ 文章構成や筆者の工夫に気づきながら要旨をとらえている。 (読イ)
- ・ 調べたことをもとに、必要な事柄や資料を選び、整理している。 (書イ)
- ・ 地球環境に関して自分達ができることについて、
自分の考えを整理し積極的に意見を出している。 (話・聞ウ)
- ・ 調べたことを資料にまとめている。 (言(1)ウ(ウ))

4 単元指導計画(16時間)

次時	主な学習活動	指導目標
1 1	・ 2つの教材文を読み、単元のねらいを知り、学習活動の見通しを持つ。	・ 地球環境という視点から生活に目を向け、「一秒が一年をこわす」という意味を理解することができる。 (読イ)
2	・ 「一秒が一年をこわす」を通読し、筆者が問題提起していることを話し合う。	・ 問題提示文がないため「便利な生活のために大量の資源やエネルギーを使うことは、地球にどんな影響をおよぼすのだろうか。」のように自分でまとめることができる。 (読イ)
	・ 便利な生活が地球環境に及ぼす影響を説明した4つの事例をまとめる。	・ 地球環境が受けている影響について4事例を読み取り見出しを付けることができる。 (読イ)
	・ 1つ目の意味段落の要点を読み取る。	・ 4つの事例をふまえ、1つ目の意味段落の要点をとらえることができる。 (読イ)
	・ 2つ目と3つ目の意味段落の要点を読み取る。	・ 地球の誕生から現在までの時間の経過のイメージを持ちながら、2つ目と3つ目の意味段落の要点をとらえることができる。 (読イ)
	・ 題名と3つの段落の要点をもとに、要旨をとらえる。	・ 題名と3つの段落の要点をもとに、要旨をとらえる。 (読イ)
3	・ 「ホタルのすむ水辺」を読み、文章の構成や論の展開、問いの文に気づく。	・ 教材文を通読し、文章の構成図、問いの文を書くことができる。 (読イ)
	・ 「ホタルのすむ水辺」を読み、筆者の考えをとらえ、自分の考えを持つ。	・ 環境問題に対する筆者のメッセージを実感しながら要旨をとらえることができる。 (読イ)
4	・ 身の回りの環境問題を選び、活動の方向を理解する。	・ 環境問題について、自分の課題と活動の見通しを持つことができる。 (読オ)
	・ 自分の課題にそった、活動の計画を立てる。	・ 何をどのように調べ、どうまとめるのか、明確に計画を立てることができる。 (読オ)
	・ 自分の課題にそって調べ学習をする。	・ 自分の課題にそって、本やインターネットなどで幅広く調べることができる。 (読工)
	・ 子ども環境会議を開催する。	・ 感想の交流や活動の反省ができる。 (読工)

5 本時の指導（本時3 / 16）

（1）本時の目標

「一秒が一年をこわす」の1つ目の意味段落の4事例を読み取り、それぞれの事例に見出しを付けてまとめることができる。

（2）本時の評価規準

4事例を3つの観点にそって読み取り、それぞれの事例の見出しを考えている。

（3）研究主題との関連

説明文教材を正しく読み取るための指導法の研究の 要点をとらえさせる方法や手順
 （ア）まとめて述べている文をさがす。（エ）段落と段落の意味のつながりを考えながら読む。
 との関連で指導する。

本時では、「学び合う」の段階で、4事例をつなぎ言葉を手がかりに探し出し、意味段落内の構成を明らかにし、意味段落の要点をとらえる前段階として、まず4事例の内容をまとめていきたい。

（4）展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点と評価
つかむ 3分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 便利な生活が地球環境におよぼす えいきょうについてまとめよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時に作った問題提示文を確認する。 1つ目の段落の前半で問題提示がなされていることを確認し、それに続く後半部分を読み取り、要点をまとめていくことを知らせる。
見通す 5分	3 学習の見通しを立てる。 <ul style="list-style-type: none"> [また]の使われ方について考える。 事例は何個あるか予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意味段落内の構成がどうなっているのかに着目させ、事例と筆者の考えをまとめて述べている文をさがし、本時では、事例についてまとめていくことを確認する。
学び合う 35分	4 本時の学習範囲を音読する。(～P42L1) 5 意味段落内の構成について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 例示の部分 まとめて述べている文を明らかにする。 6 4つの事例を読み取り、ワークシートに記入する。 7 読み取ったことを話し合う。 8 4つの事例の見出しを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に気を付けながら音読する。 各形式段落の役割が何なのか考えられるようにさせる。その際、「例えば」「また」「さらに」「そのうえ」などの例示するためのつなぎ言葉の使い方にもふれる。 人間が便利な生活をするために行った事そのことによってどうなったか最後に地球はどうなってしまうのかの3つの観点で読み取りをさせる。 【評】ワークシートに観点にそって記入しているか。 考えの違いは赤ペンで修正させる。 できるだけ短く適切なものにさせる。 【評】ワークシートに自分で考えて記入しているか。

	9 考えた見出しを交流し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 早く終わった児童は、ホワイトボードに考えたものを記入させておく。 考えの違いは赤ペンで付け足させる。 自分との違いに気づかせたり、教科書にない言葉を使って短く適切に作っていた児童を賞賛したりする。
まとめ 2分	10 自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに で評価させる。
	11 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> 1つ目の意味段落の要点を文章でまとめることを予告する。

(5) 具体の評価規準

- A 4つの事例を3つの観点にそって要約的に読み取り、それぞれの事例に短く適切な見出しをつけている。 (読イ)
- B 4つの事例を3つの観点にそってワークシートに記入し、それぞれの事例の見出しを考えている。 (読イ)

「C 児への支援」

4つの事例を3つの観点にそって読み取り、ワークシートに記入することができないでいる児童には、文章が長くなってもよいので、観点到った内容の部分を書き抜くように促したい。また、見出しをつける活動で、自分で言葉を作ったり考えたりできない場合には、それぞれの事例を表している大切な言葉(キーワード)を文中から選ばせるようにさせたい。

(読イ)

(6) 板書計画

そのうえ	さらに	また	例えば	
石油や石炭を大量に消費している	資源やエネルギーを大量に使う	森林やひがたなどの開発が進む	森林を切り開き紙の原料や燃料用地とする	行った事
大気中の二酸化炭素が増え続ける	出される廃棄物の量も増える	野生動物がすみかをうばわれほろぶ	山崩れや洪水を起し土地は荒れる	結果
気温がどんどん上がっていく	生物にとって大切な水や空気が汚れてしまう	自然が貧しくなり、人類にも好ましくない	不毛のさばくに変ってしまう	地球
地球温暖化	大気や水のよごれ	野生動物の減少	さばく化	見出し

一秒が一年をこわす
話題や問題の提示をしている部分
便利な生活のために大量の資源やエネルギーを使うことは、地球にどんなえいきょうをおよぼすのだろうか。
えいきょうについてまとめよう
事例を述べている部分